

事業番号

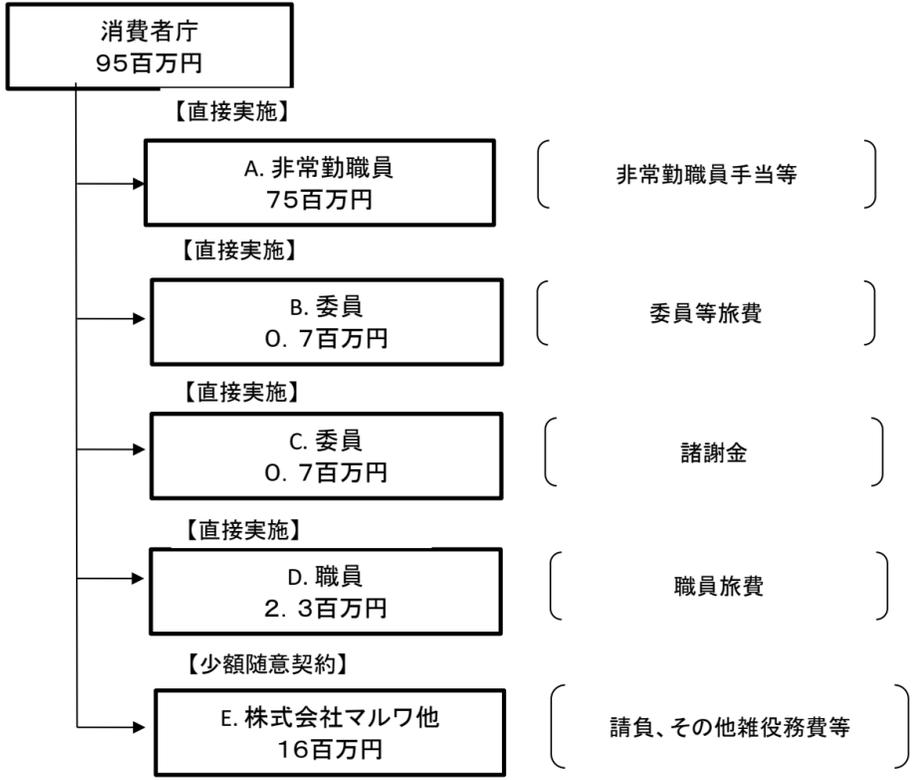
2023 - 消費 - 22 - 0033

令和5年度行政事業レビューシート				（ 消費者庁 ）				
事業名	食品表示対策の推進		担当部局庁	消費者庁		作成責任者		
事業開始年度	平成21年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	食品表示企画課	課長 清水 正雄		
会計区分	一般会計							
根拠法令(具体的な条項も記載)	食品表示法第4条 健康増進法第43条		関係する計画、通知等	・消費者基本計画(令和2年3月31日閣議決定(令和3年6月15日改定)) ・消費者基本計画工程表(令和2年7月7日消費者政策会議決定(令和5年6月13日改定))重点項目5				
政策	消費者政策の推進		主要経費	その他の事項経費				
施策	食品表示の企画・立案・推進							
政策体系・評価書URL	https://www.caa.go.jp/policies/evaluation/							
事業の目的(5行程度以内)	食品表示は、食品を摂取する際の安全性の確保及び自主的かつ合理的な食品の選択の機会の確保に関し重要な役割を果たしているため、食品表示に関する制度を適正に企画・立案・運用し、もって消費者の利益の増進を図ることを目的とする。							
現状・課題(5行程度以内)	・時代に即した食品表示制度を検討するに当たり、①特に、アレルギー表示やデジタル技術等の科学的・専門的見地に立脚した制度を適正に企画・立案するためには、食品表示をめぐる情勢の変化に係る各種調査のみならず、専門家の意見を聴取することが必要であるとともに、②国際基準であるコーデックス規格との整合性を踏まえるに当たり、我が国の意見を国際基準に反映させるためにも、コーデックス規格策定に向けた議論を行う国際会議に出席する必要。 ・食品表示制度を安定的に運営するためには、①整備されたインフラを確実に運用するとともに、②効果的な資材を用いた普及啓発活動により、消費者の本制度への関心の向上及び事業者による本制度の適正な対応を図り、以て、消費者の本制度への認知度を高め、実際に活用してもらうことが必要。							
事業概要(5行程度以内)	①食品表示制度の見直しを検討する際に必要となる、専門家の意見を聴取するための検討会等を実施。 ②コーデックス規格策定に向けた議論を行うコーデックス委員会へ出席。特に食品表示部会(CCFL)及び同栄養・特殊用途食品部会(CCNFSDU)については、当課が政府代表団の団長として出席。 ③食品表示制度に関する効果的な普及啓発資材の作成。 ④機能性表示の届出書類の確認、特定保健用食品の申請書類の確認、各種制度に関する照会事務への対応、製造所固有記号の申請事務への対応。							
事業概要URL	https://www.caa.go.jp/policies/budget/assets/caa_cms205_211224_02.pdf (44枚目)							
実施方法	直接実施、委託・請負							
補助率等								
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の状況	当初予算(A)	104	101	96	93	-	
		補正予算(B)	-	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	104	101	96	93	-	-
		執行額(G)	82	88	95	-	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	79%	87%	99%	-	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	79%	87%	99%	-	-	-
		歳出予算項・目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
		(項)	食品表示対策に必要な経費					
(目)	食品表示適正化推進等経費							
	その他	93	-					
	計(A)	93	-					
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)								

<p>活動内容① (アクティビティ)</p>	<p>食品表示制度を適切に企画・立案・運用するために必要な、有識者の意見を聴取するための検討会等の実施及びコーデックス規格策定に向けた議論を行うコーデックス委員会への出席。</p>									
↓										
<p>活動目標及び活動実績① (アウトプット)</p>	<p>活動目標</p>	<p>活動指標</p>	<p>単位</p>	<p>令和2年度</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>5年度 活動見込</p>	<p>6年度 活動見込</p>		
	<p>食品表示制度の企画・立案・運用を行うための有識者による検討会等の実施</p>	<p>制度の適正化・充実を図るための検討会等の開催件数</p>	<p>活動実績 回</p>	<p>7</p>	<p>9</p>	<p>4</p>	<p>-</p>	<p>-</p>		
			<p>当初見込み 回</p>	<p>5</p>	<p>6</p>	<p>10</p>	<p>-</p>	<p>-</p>		
↓	<p>成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)</p>	<p>本事業は、「食品を摂取する際の安全性の確保及び消費者の自主的かつ合理的な商品の選択の機会の確保を図る」ために、時代に即した食品表示制度を企画・立案・運用することを目的とする事業であり、その効果はまずは「制度の改正」として発現するものである。 具体的な実施内容としては、①食物アレルギー制度の特定原材料に「くるみ」を追加する見直しの検討、②特別用途食品の許可の検討、の際に有識者の意見を聴取するための検討会を実施した。 さらに、コーデックス規格の策定に係る議論を行うコーデックス委員会に出席し、将来的な我が国食品表示制度の検討に資しているところである。 コーデックス委員会食品表示部会(CCFL)及び栄養・特殊用途食品部会(CCNFSDU)への参加回数 <活動実績>令和3年度:2回、令和4年度:1回、令和5年度1回(活動見込)</p>								
<p>成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)</p>	<p>成果目標</p>	<p>定量的な成果指標</p>	<p>単位</p>	<p>令和2年度</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>目標年度 年度</p>			
	<p>時代に即した食品表示制度の見直し</p>		<p>成果実績</p>							
			<p>目標値</p>							
			<p>達成度</p>	<p>%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>		
<p>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</p>	<p>・食物アレルギー表示制度の特定原材料(義務表示事項)への「くるみ」の追加(有識者検討会において専門家の意見を聴取) ・特別用途食品制度の運用改善及び許可基準型病者用食品への経口補水液の追加(特別用途食品の許可等に関する委員会において専門家の意見を聴取)</p>									
↓	<p>成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)</p>	<p>本事業は最終的には、食品表示制度の適正化・充実によって一般消費者の利益の増進を図るものであるが、適正化のための課題は時代によって刻一刻と変化している。安定的で適正な制度とするためには、柔軟に課題を見極めるとともに、この変化する政策ニーズに即応し、本事業実施の結果、消費者により受け入れられる制度とすることが求められている。 本制度が「消費者の政策ニーズを踏まえた、時代に即した制度になっている」とすれば、消費者が使いやすい制度となっていることになり、消費者の本制度への満足度向上につながると考えられるため、食品表示の満足度を長期アウトカムとした。 これは、食品表示制度の最終的な目的である、「食品を摂取する際の安全性の確保及び自主的かつ合理的な食品の選択の機会の確保に関し重要な役割を果たしている食品表示制度の適正を確保し、もって一般消費者の利益の増進を図る」ことの指標として相応しいものである。</p>								
<p>成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)</p>	<p>成果目標</p>	<p>定量的な成果指標</p>	<p>単位</p>	<p>令和2年度</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>目標年度 年度</p>			
			<p>成果実績</p>	<p>%</p>						
			<p>目標値</p>	<p>%</p>						
			<p>達成度</p>	<p>%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>		
<p>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</p>										
↓	<p>成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)</p>									
<p>成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)</p>	<p>成果目標</p>	<p>定量的な成果指標</p>	<p>単位</p>	<p>令和2年度</p>	<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>目標最終年度 年度</p>			
	<p>食品表示の満足度を向上させる。</p>	<p>食品表示の消費者の満足度</p>	<p>成果実績</p>	<p>-</p>						
			<p>目標値</p>	<p>-</p>						
			<p>達成度</p>	<p>%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>		
<p>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</p>	<p>食品表示に関する消費者意向調査報告書(消費者庁調べ) ※来年度以降目標値を記載(消費者意向調査に反映)</p>									
<p>アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由</p>										
<p>(①-1の成果目標が定性的なアウトカムとしている理由について) 本事業は、「食品を摂取する際の安全性の確保及び消費者の自主的かつ合理的な商品の選択の機会の確保を図る」ために、時代に即した食品表示制度を企画・立案・運用することを目的とする事業であり、その効果はまずは「制度の改正」として発現するものである。一方で、本制度改正において重要なことは、その改正した数ではなく、消費者のニーズに応え得る改正が行えたかであることから、「制度の改正回数」を定量的な目標として設定することは相応しくない。</p>										
<p>アウトカム設定についての説明</p>										
<p>アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由</p>										

活動内容② (アクティビティ)	時代に即して見直された食品表示制度を、消費者の安全性の確保及び自主的かつ合理的な食品の選択の確保に資するためには、消費者及び事業者に対し、食品表示制度に関する効果的な資料を用いた普及啓発により、①消費者の本制度への関心の向上及び②事業者による本制度の適正な対応(による本制度の安定的な運用)を図り、以て、消費者が本制度への認知度を高め、実際に活用してもらうことが必要であることから、本事業において必要な普及・啓発資料を作成する。								
↓									
活動目標及び活動実績② (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	食品表示制度に関する普及啓発を行うための資料を作成し、消費者及び事業者に対し、効果的な普及啓発を行う。	食品表示に関する普及・啓発資料(パンフレット、ポスター等)の配布枚数	活動実績	回	8,722	63,607	293,748	-	-
			当初見込み	回	-	-	-	-	-
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) 作成した普及啓発資料を、消費者向けの食品表示制度のセミナー、消費者庁からの講師派遣、団体や地方自治体を介した周知普及などあらゆる手段を用いて効果的かつ積極的に配布することで、消費者や事業者の食品表示制度の関心の高まりを図る。 これらの取組の結果も相まって、食品表示制度に関心を持った消費者や事業者から当庁の関連するサイトへ多くのアクセスがなると考えられることから、短期アウトカムとして、食品表示基準等に関するホームページへのアクセス数を設定した。								
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
	食品表示制度への関心が高まる	食品表示基準等に関するサイトへのアクセス回数	成果実績	回	5,790,729	5,935,215	4,576,478	-	
			目標値	回	4,000,000	4,000,000	4,000,000	-	
			達成度	%	144.8	148.4	114.4	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	消費者庁調べ								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり) 消費者の制度への関心が高まることで、消費者の更なる食品表示の認知度向上につながると考えられるため、食品表示の認知度を中期アウトカムとした。								
成果目標及び成果実績②-2 (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
	食品表示の認知度を向上させる。	食品表示の認知度	成果実績	%	66.3	58.9	56.3		
			目標値	%	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	食品表示に関する消費者意向調査報告書(消費者庁調べ)								
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり) 本制度が「消費者の政策ニーズを踏まえた、時代に即した制度になっている」とすれば、消費者が使いやすい制度となっていることになり、普及啓発活動による②-2の「消費者の認知度向上による活用拡大」も相まって、消費者の本制度への満足度向上につながると考えられるため、食品表示の満足度を長期アウトカムとした。 これは、食品表示制度の最終的な目的である、「食品を摂取する際の安全性の確保及び自主的かつ合理的な食品の選択の機会の確保に関し重要な役割を果たしている食品表示制度の適正を確保し、もって一般消費者の利益の増進を図る」ことの指標として相応しいものである。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
	食品表示の満足度を向上させる。	食品表示の消費者の満足度	成果実績	%	-	-	-		
			目標値	%	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	食品表示に関する消費者意向調査報告書(消費者庁調べ) ※来年度以降目標値を記載(消費者意向調査に反映)								
アウトカム設定について の説明	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								

活動内容③ (アクティビティ)		食品表示制度を安定的に運営するためには、整備されたインフラ(機能性表示の届出書類の確認、特定保健用食品の申請書類の確認、各種制度に関する照会事務への対応、製造所固有記号の申請事務への対応)を確実に運用する。									
↓											
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		保健機能食品(特定保健用食品及び機能性表示食品)の新規申請・届出の許可・確認事務を適切に遂行する	保健機能食品(特定保健用食品及び機能性表示食品)の新規届出確認数	活動実績	回	1,086	1,330	1,443	-	-	
				当初見込み	回	-	-	-	-	-	
↓		<p>食品表示基準の見直しに伴う制度の安定的な運用のために、外部(消費者・事業者等)からの照会対応が発生する なお、本事業における照会事項には、アウトプットに示した保健機能食品以外にも、各種制度に関する照会事務への対応、製造所固有記号の申請事務への対応も存在し、その問い合わせ件数は以下のとおり。 <各種制度に関する照会への対応> 令和2年度:20,588件、令和3年度:22,049件、令和4年度:20,272件 <製造所固有記号の申請事務への対応> 令和2年度:12,279件、令和3年度:9,465件、令和4年度:8,371件 これらの照会事務を通じて、制度が安定的に運用されていることが考えられ、その指標(短期アウトカム)として、不適正表示率を設定した。</p>									
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 年度		
		不適正表示率を低いレベルに抑制	加工食品の義務表示事項の不適正表示率	成果実績	%	1.2	0.9	-	-		
				目標値	%					-	
				達成度	%	-	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		監視部門による指導件数									
↓		<p>成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)</p> <p>不適正表示率を継続的に低いレベルに抑えた結果、消費者からの本制度に対する信頼は高まり、これは時代に即した制度の見直しと相まって、消費者の本制度への満足度向上につながると考えられるため、食品表示の満足度を長期アウトカムとした。 これは、食品表示制度の最終的な目的である、「食品を摂取する際の安全性の確保及び自主的かつ合理的な食品の選択の機会の確保に関し重要な役割を果たしている食品表示制度の適正を確保し、もって一般消費者の利益の増進を図る」ことの指標として相応しいものである。</p>									
成果目標及び成果実績 ③-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 年度		
				成果実績							
				目標値							
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績											
↓		<p>成果目標③-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)</p>									
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 年度		
		食品表示の満足度を向上させる。	食品表示の消費者の満足度	成果実績	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		食品表示に関する消費者意向調査報告書(消費者庁調べ) ※来年度以降目標値を記載(消費者意向調査に反映)									
アウトカム設定についての説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由									



資金の流れ
 (資金の受け取り先が
 何を行っているかにつ
 いて補足する)
 (単位：百万円)

A.			B.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	非常勤職員手当	64.2	委員等旅費	検討会等出席	0.7
保険料等	通勤手当、保険料、児童手当拠出金	11.2			
計		75.4	計		0.7
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
諸謝金	検討会出席	0.7	職員旅費	コーデックス委員会出席、検討会出席、セミナー 対応等	2.3
計		0.7	計		2.3
E.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
請負	印刷・製本	9.9			
雑役務費等	梱包・発送、デザイン費、速記料、通信運搬費等	3.6			
借料	検討会等の開催	1.5			
物品購入	消耗品、備品、通信運搬費	0.6			
計		15.6	計		
G.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

費目・使途
 (「資金の流れ」において
 ブロックごとに最大の金
 額が支出されている者
 について記載する。費目と
 使途の双方で実情が分
 かるように記載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

